

アクアビクス教室

～温水プールで健康に～

内容 ☆リフレッシュ（有酸素運動）
 ☆コンディショニング（肩、腰、膝関節痛の予防）
 ☆シェイプアップ（水の抵抗を利用した運動）

参加費 無料（施設利用料は有料）

その他 申し込みは不要です。
 1回ごとの教室なので途中からも参加できます。
 水着を用意して、参加してください。
 ※7・8月は休み

昼の部 毎週金曜日 午後2時30分～3時30分
 開講日 4月9日（金）から
 （4月30日、9月24日、10月29日、12月24日、
 2月11日、3月25日は休み）
 講師 武田綾子さん（アクアビクスインストラクター）

夜の部 毎月第2・3・4火曜日 午後7時15分～8時15分
 開講日 4月13日（火）から（12月28日は休み）
 講師 野村沙織さん（アクアビクスインストラクター）

休館日 毎週木曜日 ※4月29日（休）は祝日（昭和の日）にあたるため、開館となります。4月30日（金）は振替休館日になります。

開館時間 午前10時～午後9時

入館料（1日） ▷大人=500円 ▷小人・70歳以上・障害者=300円

市民の文芸

詩

宮前利保子 選

クリスマスローズ

（上丹生）赤石 静江

落葉をかき分け
みつけた みつけた

ピンク色した 小さな蕾のかたまり
頬を寄せあい
抱きあうように
春の訪れを待っている
クリスマスローズ

頭を下げてたまま やがて
首をのびしながら 花開く
時がたつと しいだいに
緑色に変化していく
不思議な花

落葉のお布団取っては
まだ可愛そう
もうすぐ暖かい
春が来るから
じっと待ってて

俳句

高橋 洋一 選

雪解に地下足袋重く跡残す
ひと掃きの箒に消ゆる春の雪
風花の舞ひ散る里や過疎となり
ラジオより聴ける里山芽吹き色
しだれ桃塀に彩なすアトかな
梅林に姉と来るたび父思ふ
雛の日にご馳走ふたつ孫二人
バレンタインチョコは自分買っただけ
立ち止まり胸いっばいに梅香る

（曾木）入山 静子
 （下黒岩）吉田シズ江
 （後賀）湯山 典子
 （富岡）折茂 昭
 （七日市）金田きみ子
 （宇田）小金沢基久江
 （曾木）曾根はるな
 （曾木）曾根 静華

短歌

宮前しづ子 選

差し芽より友の育てし紅梅賜びしが雪の庭に咲きたり
 夜半降りし雪に耀ふ妙義嶺の突元とせるさまを仰ぎぬ
 遣唐船は黄砂の風と文化持ち帰りし歴史を孫に語りぬ
 小魚の群なす大塩湖の入江冬陽はそこだけ温かく差す
 いただきし固き蕾の佐助は日毎優しき花となりゆく
 三月に米寿を迎へるわが祖父の豆撒く声の若々しかり
 縁側に茶を飲みながら庭に咲く福寿草の花を母は眺むる
 縁先の満開の梅にうぐひすの来たりて鳴けり昨日も今日も
 ぶかぶかのスキーするよなパパの靴引きづりながら幼は歩けず
 図書館の奉仕つづけてポプラの会より表彰受けたり思ひがけなく

川柳

猛選

恵方巻腹に納めて方位向き
 芽摘いを確かめ春の事始め
 ジャガ芋を植えて今年の農始め
 眼光が虜にさせるカーリング
 憎めない御喋り好きな女の子
 チグハグの会話で暮らす老い二人
 シンプルが個性活かして垢抜ける
 ソロバンは下手で人情もろく生き
 シルバーに誘われるまで年忘れ
 針供養次いでに家内安全も

（二ノ宮）大野 里子
 （野上）飯塚 邦武
 （二ノ宮）保坂 敏夫
 （一ノ宮）田島 悦子
 （富岡）湯浅サチ子
 （富岡）黒沢 繁
 （富岡）田島八千代
 （富岡）金井 君代
 （相野田）小柴真知子
 （富岡）大河原富美

募集

富岡製糸場 ボランティア解説員

富岡製糸場では、団体見学者の要望に応えるため、建物の外観だけでは分からない富岡製糸場の価値を解説する、ボランティア解説員を新たに募集します。

富岡製糸場に興味のある人、外国語（英語、フランス語、中国語、韓国語など）が堪能な人、世界遺産に興味のある人など、皆さんの応募をお待ちしています。

応募者に対して後日研修を行いますので、富岡製糸場に関して予備知識がなくても結構です。ぜひご参加ください。

研修日

①5月15日（土）・16日（日） 講義・実地研修
 ②5月20日（木）・21日（金） 講義・実地研修
 ※研修日は、①または②どちらかを申し込み時に選択してください。

申し込み・問い合わせ 4月20日（火）午後5時までに、世界遺産推進課（富岡製糸場内、☎64-0005・☎64-3181）へ。

富岡製糸場周辺 まちづくり協議会委員

富岡製糸場周辺まちづくり協議会は、製糸場周辺のまちづくりを進めるために、観光客の受け入れ、街並み景観、世界遺産登録運動への協力などに関する事業を行っています。

平成22年度、23年度の2年間、活動していただける委員を公募します。まちづくりについて関心のある人、特に女性の積極的な応募をお待ちしています。

募集人数 6人程度

申し込み・問い合わせ 4月23日（金）午後5時までに、はがき（当日消印有効）、電話、ファクス、Eメールのいずれかで、都市計画課まちづくり係（まちかど遊YOUプラザ内、富岡115-1・☎62-5439・☎62-5469・Eメール matidukuri@city.tomioka.lg.jp）へ。



まちなかポケットパーク 修復中の蔵

近代産業の夜明け

富岡の 明治維新

88

富岡製糸所の草創期から関わり、また、長期間所長の立場で経営に当たった速水堅曹は、製糸所の長所・短所を知り尽くしていた。それを基に工夫改善を繰り返して、「製糸所は赤字だ」という汚名をみごとに挽回したのである。

彼はその苦心を次のようにまとめている。

「そもそも富岡製糸所は最初より維持困難にして損失を重ね、資本金（購購入費）20万円の分9万円に減少したものを、自分分は予てより一般人のように銀行に利子を払って借金し、ついに損金11万円を挽回し（つまり資本金20万円に戻す）、海外に名誉を得た。また日本国中より来場した者に教授した数は何百人になるか分らない。さらに、最終の決算によれば同所の建築固定資本も返却し、なお1万余円利益を政府に納めることができた。この一切について、最初から苦心されてきた松方大蔵大臣に書面をもって報告したとこ

ろ、大臣も非常に感激され、比類ない事業であると言われた」まさに彼の功績が高く評価されたのである。

三井家が望むならばさらに助力するつもりではあったが、三井家が敢えてこれを拒否したので、明治26年10月2日を持って職を退き、翌年2月28日まで富岡製糸所残務整理を行ない、同日を以てすべての整理を完成させたのである。

10月2日に職を退いた以降、富岡周辺の有志が、彼の職務を称えた懇親会を開いてくれ「是非当地に留まって欲しい」「そのためには家も与えたい」という好意もあったが、一旦出京を決めたことなので、それも謝絶したのである。

送別会に当たり、利根川孫六郡長は「官営製糸所を廢するを以て任を辞め、居を東京に移されんとす。君の職に在るや精勵勉勵よく製糸の改良を完うし、外広く斯業の模範を作り、遂に本邦製糸の名声をして万国第一に達せしむ」と謝辞を述べた。11月19日、富岡を別れ浅草旅籠町に転居したのである。（今井 幹夫）

富岡製糸場の歴史を紹介しています。過去に掲載されたものを見たい場合は市長公室にお問い合わせください。